

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山東部小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

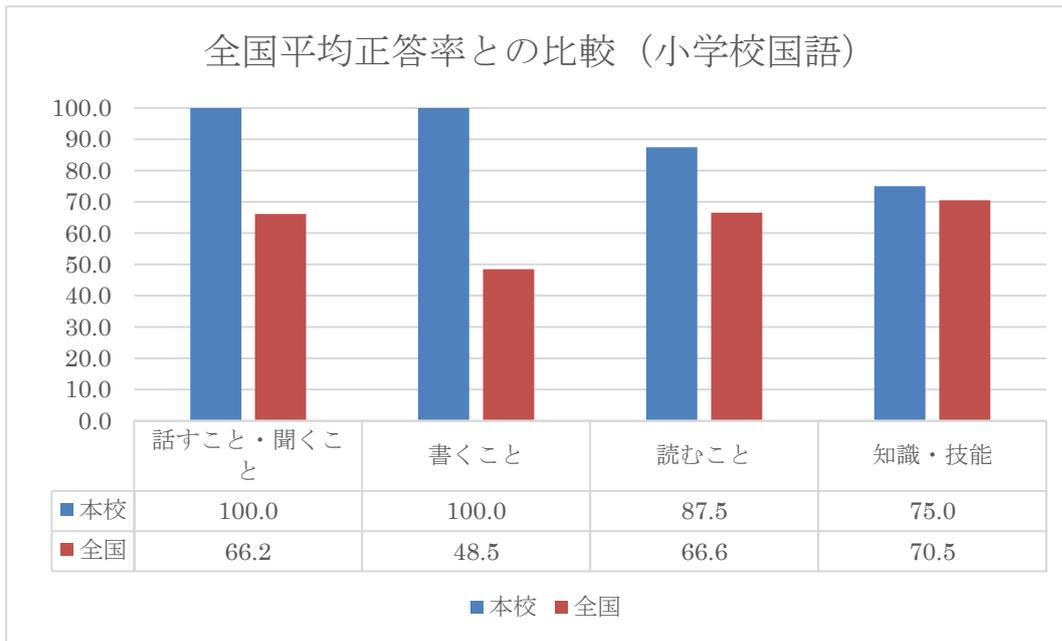
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全領域で全国平均を上回る結果でした。無回答率も0%で学習意欲の高さが見られました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率は、100%でした。「読むこと」も全国を大きく上回る結果でした。

(2) 成果と課題

「話すこと・聞くこと」で正答率が100%になったのは、継続的に全校スピーチに取り組んでいることの成果が表れていると考えられます。

「知識・技能」は、全国を上回っていますが上回り方は、4.5ポイントで小さいです。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段からの漢字や言葉の学習、音読などの家庭学習の充実を図ることが大切であると考えています。

全体的に問題文の読み取りに課題が見られます。最後までしっかりと、問われていることを読み取る習慣を身に付けさせる必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

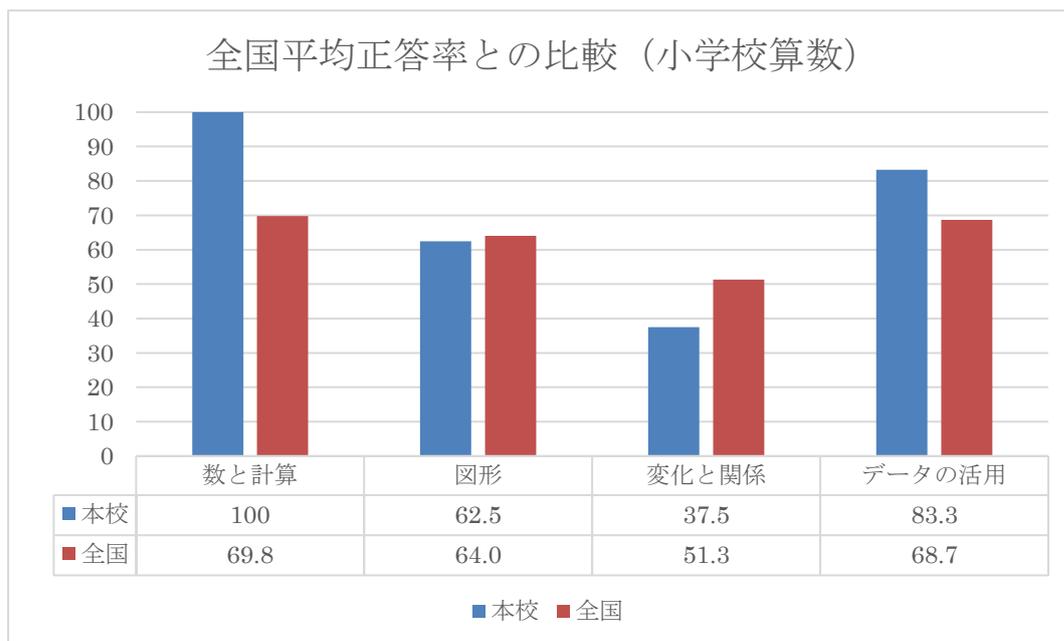
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、学習課題を工夫したり学習の振り返りを充実させたりして子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 学習課題の工夫を通して各単元で身に付ける資質・能力を子ども達に意識させる授業づくりをしていきます。
- 授業での発問の工夫をして、しっかりと最後まで話を聴く習慣を付けていきます。

【ご家庭では】

- 語彙が増えることは、ものを考えるときの手助けになります。また、自分の気持ちをより正確に伝えるときの手段になります。お子様の語彙を増やすために読書の習慣をつけさせましょう。一緒に読書をすることも効果的です。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュースから話題をあげ、自分の考えを話したりお子様の考えを聞いたりしましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。
- 中高学年では、生活の中で分からない言葉に出会った時に、辞書を引く習慣をつけさせましょう。語彙力が高まり自分の思いを表現する力を伸ばすことができます。

2 算数



(1) 結果

全体で見ると全国を8.8ポイント上回る結果でした。「数と計算」の正答率は、100%でした。また、無回答率も0%でした。「変化と関係」では、全国を13.8ポイント下回りました。

(2) 成果と課題

「数と計算」の正答率100%の結果は、日頃の家庭学習の成果であり、基礎基本がしっかりと身につけていることの表れであると思われます。

「変化と関係」では、割合の問題に課題が見られました。割合の考え方を日常生活に生かす力が不足していると考えられます。「図形」では、プログラミングに関する問題が出題されました。問題が長文になっており、読み取ることが難しく誤答を出していると考えられます。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後も日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

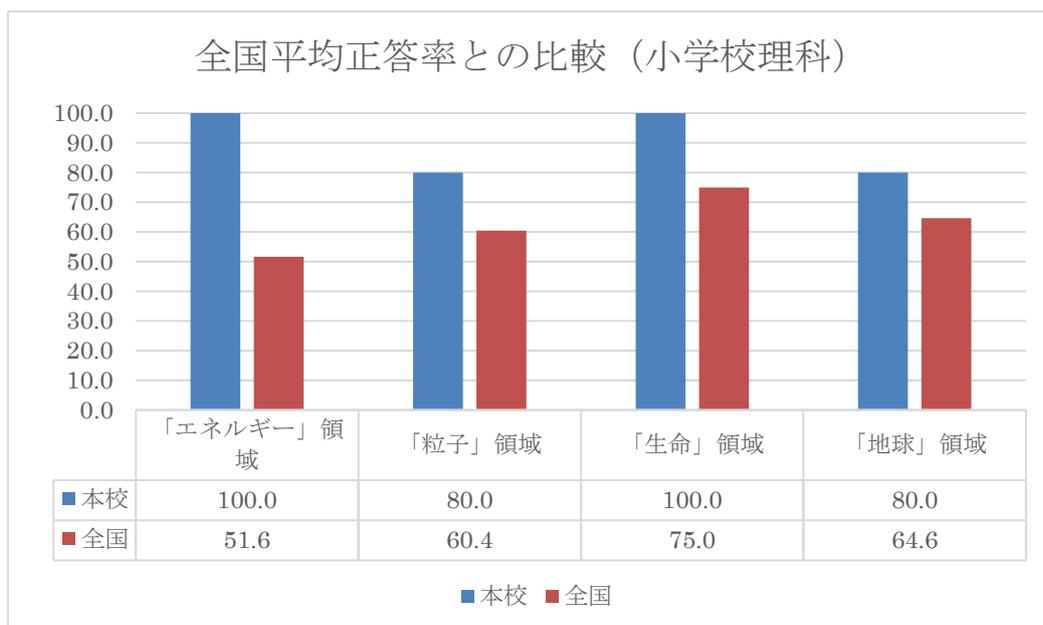
【学校では】

- 一人ひとりの学習状況を確実に把握し、個に応じて基礎基本習得のための補充学習と活用力向上のための発展的な学習を取り入れていきます。
- 様々な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、思考力の向上に努めます。
- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数で学習したことを生活に生かすようにさせましょう。「買い物で場面代金・おつり・割合(%)」「おかし数えてかけ算」「料理で重さ・かさ」「おり紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、身の回りには、算数が使えるものがたくさんあります。生活の中で算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

3 理科



(1) 結果

全領域で全国平均を大きく上回る結果でした。「エネルギー領域」「生命領域」で正答率は、100%でした。記述式問題の正答率も全問題で全国を上回りました。無回答率も0%でした。

(2) 成果と課題

授業では、少人数を生かして一人で実験をしたり実験後の考察を書いて発言したりすることを多く取り入れています。児童は、実験・観察が大好きで意欲的に取り組むことができます。その成果が表れていると考えられます。今後も日々の授業で書く活動と説明する活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力・判断力・表現力を向上させます。
- 発展的な実験や観察を取り入れることにより理科への興味・関心を高めていきます。
- 自主学習を奨励しています。頑張った自主学習ノートは、掲示することで他の児童に広めています。

【ご家庭では】

- お子さんのプリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが大切です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 生活の中で不思議に思ったことや興味をもったことは進んで調べたり観察・実験をしたりすることができるように手助けをしてください。
- 本校の校区は、自然豊かな環境にあるので、お時間がある時は、お子さんと自然探索をされることも自然への興味・関心を高めることにつながると思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《よくできていると思われる質問事項》

- 朝食を毎日食べていますか。 ○自分には、よいところがあると思いますか。
- 将来の夢や目標をもっていますか。
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 学校に行くのは楽しいと思いますか。 ○友達と協力するのは楽しいと思いますか。

《課題と思われる質問事項》

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、読書を読みますか。
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

朝食を毎日食べることができています。これは家庭の協力を得ている成果です。今後も家庭と学校が協力して習慣化していきましょう。

自己肯定感も高く、将来の夢に向かってコツコツと努力を続けていることが分かります。

規範意識も高く、友達と協力しながら楽しく学校生活を送ることができています。

毎日、家で自分で計画を立てて勉強をすることが課題です。自分の得意分野を伸ばし、苦手分野を克服するために自分で学習内容と時間を決めることは、学力の向上にもつながります。

読書時間が短いことも課題です。読書は、語彙力を高め、知識も豊富になり心も豊かになります。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校教育目標の柱である「進んで学習」「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」「自分も友達も大切に」を常時子どもたちに意識させるようにしています。
- 家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味や計画の立て方を児童に伝えて習慣化するように指導をしていきます。
- 図書委員会を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- お子さんと話し合って、学習時間を確保してください。学習時間のめやすは、「10分×学年+30分」(宿題や自学・読書等を含む)です。
- 子どもが勉強している時は、テレビを消す等、落ち着いて学習できる環境を整えてください。
- 読書の時間を確保してください。親子で同じ本を読んで感想を話し合うこともおすすめします。
- 規則正しい生活と家庭学習が定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。